

第2回 鳴瀬川等大規模氾濫時の減災対策協議会

議事概要

日時：平成28年7月5日（火）9時30分～11時30分

場所：大崎生涯学習センター 多目的ホール

委員出席：11市町村のうち、首長は7市町村出席

報道機関：NHK 仙台放送局、宮城テレビ放送、東日本放送、仙台放送、
河北新報社、三陸河北新報社、大崎タイムス社、日刊建設新聞社、
建設新聞社

協議会の進め方

(1) 規約及び傍聴規定について説明し、質問を受ける

⇒異議なし

(2) 幹事会の報告 (3) 取組方針について (4) 簡易アラートのデモ
上記について一括説明

その後、委員全員が概ね3分程度で意見も含め、発言

◆各委員からの発言（抜粋）

- 30年前の旧鹿島台町で発生した大規模氾濫を風化させてはならない。
- このような協議会が司令塔となって連携して危機管理に対応したい。
- 減災に向けて、国、県、市町村で情報を共有しながら取組を進めて参りたい。
- 非常時には、国、県、市町村の垣根を越えて、関係機関が連携したスピード感が重要。
- これから取組方針を具体化していくためには、日頃からの訓練、実践が必要。
- 本取組方針を地域に周知していきたい。
- 夜間での住民避難は非常に難しい。関東・東北豪雨時は急激な水位上昇から一発で避難指示を発令したが、あとで、もっと早くから情報が欲しかったという声が多かったことを踏まえ、タイムラインの充実なども取り組みたい。
- 防災無線は聞こえないという状況であり、戸別無線が有効と考える。
- 9.11洪水では、自主防災組織が住民の避難のために活躍したことから重要である。

- 地域の防災訓練を地震中心から、地震と水害の複合型訓練に変更した。
- 自主防災は地震や火災がメイン。今後は水害をプラスしたい。
- 水防団と消防団は兼務。水防活動時の安全管理（基準）が必要。
- 水防団不足について、本腰をいれなければならない。
- 水防活動には、マンパワーが足りない。水防資機材も含め考えていかなければならない。
- 地形等も踏まえ、今後、適切な避難ルートの選定、確保を検討していきたい。
- 孤立集落がいくつか想定されるので、避難に関して隣接する町と今後調整していきたい。
- 地形上、一番高い場所でも比高 12m 程度という町だ。大規模氾濫時はどう避難させるか構築していきたい。
- 自ら河川を見るということも大事。河川水位の見える化（過去洪水の水位表示板の設置）をお願いしたい。
- 関東・東北豪雨では庁舎は大丈夫だったが、庁舎を取り囲むように浸水した。そういう点も配慮が必要。

－ 以 上 －